

真珠湾攻撃の資料を3D マップ上にまとめた多元的デジタルアーカイブ 「パールハーバー・アーカイブ」を公開しました

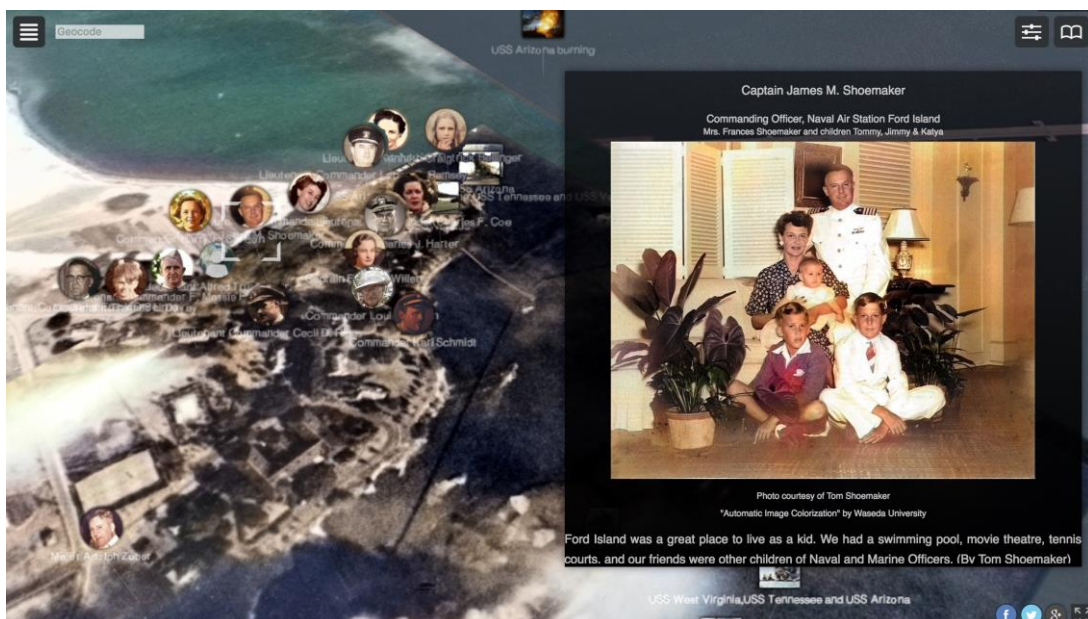
首都大学東京システムデザイン学部の渡邊英徳研究室（インダストリアルアートコース）は、1941年12月8日（日本時間）の「真珠湾攻撃」から75年目を迎える本日、真珠湾攻撃の証言・写真資料に人工知能技術で着色し、3D マップ上にまとめた多元的デジタルアーカイブ「パールハーバー・アーカイブ」を公開しました。

【アーカイブの概要】

- The Pearl Harbor Archive パールハーバー・アーカイブ
<http://1941.mapping.jp/>

制作に当たっては、首都大学東京・渡邊英徳研究室の「ヒロシマ・アーカイブ」（2011年7月発表）などの「多元的デジタルアーカイブズ」の技術を応用しました。コンテンツは、PC、スマートフォンのウェブブラウザで閲覧できます。

ハワイ在住の作家、Katrina Luksovsky 氏がまとめた証言集「Ford Island December 7, 1941: A collection of eyewitness accounts from the residents closest to Battleship Row」を元にして、真珠湾攻撃当時、ハワイに住んでいたアメリカ海軍軍人と家族の写真と証言を3D マップ上に掲載しています。また、当時撮影された空中写真、大日本帝国海軍の攻撃で被害を受ける基地のようすを捉えた写真の撮影位置を推定し、マッピングしています。



「パールハーバー・アーカイブ」画面イメージ

白黒写真については、早稲田大学・石川博研究室が開発した「ディープネットワークを用いた白黒写真の自動色付け」技術（※1）を用いて着彩しました。マウスオーバー、あるいはタップ操作によって、過去を生きた人々の穏やかな日常、そこに突然訪れた戦場の情景が、鮮やかに蘇ります。



ユーザの操作に応じた自動色付け写真の表示

※1 Satoshi Iizuka, Edgar Simo-Serra, and Hiroshi Ishikawa: “Let there be Color!: Joint End-to-end Learning of Global and Local Image Priors for Automatic Image Colorization with Simultaneous Classification” ; ACM Transaction on Graphics (Proc. of SIGGRAPH), 35(4):110, 2016.

色彩は機械学習の結果によるもので、当時の色を忠実に再現したものではありません。

【お問合せ先】

○ プレスの方用

首都大学東京 システムデザイン学部 インダストリアルアートコース

渡邊英徳研究室 TEL : 090-9835-2695 MAIL : hwtrnv@tmu.ac.jp

○ 一般の方用（記事にはこちらをご掲載ください）

首都大学東京 URA室

TEL : 042-677-2759

MAIL : ragroup@jmj.tmu.ac.jp